

**小村寿太郎** 外交官。拡張政策に寄与、<日露戦争>講和で弱腰外交と非難されるも、不平等条約からの完全回復を実現。

こむらじゅたろう

安政大地震・1855 = 日向国飢肥で藩の徒士の子に生れる。

**桜田門外変**・1860 = 5歳：

**遣欧使節**・1861 = 6歳：藩校振徳堂に入り、

禁門の変・1864 = **9歳**：

頭角を現して小倉処平の目にとまり、

**明治維新**・1868 = 13歳：

戊辰戦争終・1869 = 14歳：長崎に遊学後、

上京し、明治義塾を経て、貢進生として大学南校に入学、

**明治6年政変** 1873 = **18歳**：

開成学校と改組後は法学部に属し、

初の民間工場1875 = 20歳：\_第1回文部省留学生として、アメリカのハーバード大学に留学、法律学を学ぶ。

・・・1880 = 25歳：\_帰国して、司法省雇から昇進し、

**明治14年政変**1881 = 26歳：

**新体詩抄**・1882 = **27歳**：

大審院判事をへて、

秩父事件・1884 = 29歳：

\_外務省に転じる。杉浦重剛ら国権論者とともに大隈重信外相の条約改正交渉に反対。

この間、結婚もしたが、父の経営した会社が倒産して巨大な負債を抱えて困窮した上、闊外のため、官歴も不遇で、自暴自棄的になり家庭的にも不幸であった。\_友人杉浦重剛らの奔走で自らの負債が整理されたことから、恩義に感じて国粹主義に傾き、対外強硬派となる。

初の対等条約1888 = 33歳：

翻訳局長となり、

**帝国憲法発布**1889 = 34歳：

足尾鉾毒始・1891 = **36歳**：

郡司千島探検1893 = 38歳：

\*清国駐在を命じられ、臨時代理公使となって日清開戦の方向に動く。

**日清戦争始**・1894 = 39歳：

**日清戦争終**・1895 = 40歳：

\_三国干渉後は弁理公使として朝鮮に勤務、閔妃殺害事件の善後策にあたり、

白馬会・・・1896 = 41歳：

\_日露で朝鮮内政を共同監督する小村=ウェーバー協定を成立させた。

外務次官、駐米・駐露公使を歴任ののち、駐清公使となり、

**ビア国産化**・1900 = **45歳**：

\*義和団事件收拾の国際会議には日本全権となった。

田中正造直訴1901 = 46歳：

\_第1次桂太郎内閣の外相に就任し、

教科書疑獄・1902 = 47歳：

\_日英同盟を締結、伊藤博文らの満韓交換論を押しきって対露開戦外交をすすめる。

**日露戦争終**・1905 = 50歳：

\*ポーツマス会議には全権として講和を成立させたが、講和条件を不満とする国民の非難を浴びる。

\_帰国後は東清鉄道の日米共同経営案に反対して仮契約を解消させる一方、北京に出張して清国に遼東租借地、東清鉄道守備権などの権益を承認させて日本の南満州進出の足場をきずき、

**アライ** 創刊・1908 = 53歳：

\_第2次桂内閣の外相に就任、日露協約、韓国併合をすすめ、

**伊藤博文暗殺**1909 = **54歳**：

大逆事件判決1911 = 56歳：

\*関税権の完全回復を内容とする条約改正に成功後、没した。